

笑顔にあふれ 安心して暮らせる 都市を目指して



高橋靖水戸市長は6月の市議会定例会において、市政運営に関する所信を明らかにしました。

その方針のもと、市民と行政との協働によって、笑顔にあふれ、安心して暮らせるまち、未来に躍動する先進都市を目指します。

私は、生まれ育ったこのまち、お世話になった水戸市に恩返しをしたいという強い思いから、政治の道を歩んでまいりました。その時々でどのような立場にあっても、常に考えてきたことは水戸市の発展と市民福祉の向上であり、水戸市への郷土愛と政治に対する情熱は、誰にも負けない気持ちであります。

現在、若者や子育て世代、高齢者世代等の多くの方々が、それぞれに生活や将来に不安を感じながら暮らしておりますが、それらの様々な不安を払拭し、市民の皆様の心にしつかりと安心という言葉が刻み込まれ、そして、安心を肌で実感できるまちをつくりあげていくことが、政治に求められる最も大切な役割であり、私の確固たる政治理念となっているのであります。

安心は、日々の暮らしの中で、福祉をはじめ、教育、防災、防犯などの環境が整うことによって実感できるものであり、また、経済や雇用の分野において、将来にわたって築きあげられるものでもあります。

みと安心プラン

私は、すべての市民が安心して豊かな生活を送ることのできる快適空間づくりとともに、未来に躍動する先進都市づくりを「みと安心プラン」として公約に掲げたところであり、あらゆる分野における安心を構築しながら、子どもたちをはじめ、世代を超えた多くの笑顔にあふれるまちをつくらせてまいりたい所存であります。

安心・快適な空間をつくる

その実現のために取り組むべきことは、第一に、安心・快適空間づくりであります。私の目指す笑顔にあふれ、安心して暮らすことのできる快適空間の基本となるのは、支えあい、助けあいであり、地域みんなでコミュニケーションが図れるまちであります。

このたびの東日本大震災は、未来への希望を失ってしまいそうになる出来事でした。電気、水道等のライフラインが使用できなくなることによって人々の暮らしは大きな痛手を受け、美しいふるさとも深い傷を負いました。多くの市民にとって、悲しみと苦しみの日々でありましたが、同時に、傷ついたまちを自ら立て直そうという熱い思いに立った市民の力、人と人の絆きずなによる思いやりあふれる地域の力を感じた時でもあったと思っております。この市民の力、地域の力を伸ばし、市民自らが、自ら暮らすまちを安全で安心できるま



多くの市民が災害ボランティアとして活躍

ちにしていくという意識が一層高まったとき、必ずや、水戸はすばらしいまちに成長していくものと確信しております。

もちろん、行政における役割として、「子どもを安心して生み、健やかに育てるなら水戸」、「老後を安心して暮らすなら水戸」と言われるような取組にも力を尽くしていかなければなりません。保育所待機児童の早期解消をはじめ、子どもたちの安全を確保するためにも、学校の耐震化の前倒し実施や通学路の整備に優先的に取り組んでまいりたいと考えております。また、水戸市の自然、歴史等の理解を深める教育や様々な体験を通じた学習を進めることによって、郷土を愛する心を育みながら、将来のよりよい水戸を創造していく人材、さらには、時代の要請である国際化に対応した人材の育成の視点に立った水戸らしい教育の充実に努めてまいります。

高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりに向けましては、介護予防はもちろん、高齢者が楽しみを感じながら活動できる機会や、子どもたちと憩える場を創出することが最も大切なことであると考えており、高齢者の元気を生かした、地域における多世代交流を一層推進してまいります。

また、市民が安心して暮らしていくためには、生活環境を向上させることも必要であります。市民生活に密着する道路や上・下水道等の生活基盤の整備をはじめ、浸水被害対策を推進するとともに、地球温暖化防止に向けた都市緑化、省エネルギー化に取り組むな



子どもから高齢者まで、みんながふれあうまちづくりを進めます

水戸の魅力を発信し、経済の活性化を図る

ど、自然環境との調和を基本として、自然と人にやさしい、市民が快適に暮らせる生活環境の形成に努めてまいります。

第二に、水戸の魅力の発信による経済の活性化であります。

水戸市の発展は、市民ばかりではなく、水戸都市圏や東北地域の人々の暮らしを向上させることにもつながるものと思っております。茨城県議会議員の立場から県内をつぶさに見渡してまいりましたが、つくばエクスプレスの開通以来、いわゆる南北格差が拡大していることを痛切に感じております。この南北



中心市街地の活力の再生と、都市としての新たな魅力を創出していきます

格差を解消していくためには、県都である水戸市が都市力を発揮し、あらゆる分野で先進的な役割を果たし、強力な都市圏をつくっていかねばならないのであります。

そのため、経済の活性化にも積極的に取り組んでまいります。周辺市町村との連携、協力のもと、地方ができる経済・雇用対策をしっかり立ち上げ、「安心して働くことができるのは水戸」、「企業や事業所を立地するなら水戸」と言われるよう、あらゆる分野の産業を発展させてまいりたいと考えております。

重点的に取り組むべき課題は、中心市街地の活性化であります。行政、商業、観光、教育、文化等の様々な都市中枢機能が集積され、産業をけん引してきた核としての魅力の再生が求められているのであります。そのためにも、コンパクトシティ化を目指したコンセプトをしっかりと打ち立て、これまでのハード、ソフト両面からの様々な取組に加え、人口の

定住化や来訪者の消費行動の拡大に資する施策とともに、大工町再開発などの拠点づくりを進めながら、多くの人々が暮らし、集い、楽しめる空間づくりを努めてまいります。

また、水戸のまちには、市街地に残る豊かな自然や水戸徳川家ゆかりの歴史、水戸芸術館等の文化的資産など、一つ一つを見ると人を引き付ける魅力を持つものが数多く存在します。しかしながら、これらの貴重な財産を活用しきれていないとの声が多いことも否めないものであります。

観光は、経済波及効果が高い分野であり、新たな雇用創出の大きなチャンスとなることから、震災により痛手を受けた観光の復興に力を注ぎ、交流人口の増加を図り、消費を活性化させ、経済力の回復に努めてまいります。

特に、偕楽園や千波湖周辺は、市民共通の憩いの場であるとともに、観光客のおもてなしの場でもあります。このエリアを新たな楽しみを見い出せる観光拠点としていくために、スポーツや音楽、食、健康等をテーマとしたゾーニングとともに、そのテーマに沿った様々なイベントを行うなど、水戸のまちを元気にするための仕組みづくりに取り組んでまいりたいと考えております。そして、観光客やコンベンションの誘致、特産品の販路拡大など、各方面へのトップセールスの展開をはじめ、水戸の魅力を戦略的に国内外に発信するための広報力を強化しながら、水戸市のイメージアップに取り組んでまいり所存であります。



水と緑豊かな市民の憩いの場である千波湖周辺を、新たな楽しみを見い出せる観光拠点としていきます

行財政改革の断行

第三に、行財政改革の断行であります。

現在、水戸市においては、国の制度として避けがたいものも多くありますが、増え続ける社会保障費や公共施設の更新整備などの将来負担の増加が見込まれております。

私は、市民サービスの低下、将来世代への負担の先送りは絶対にしない、また、将来投資の財源を確保していくという強い信念をもって、持続可能な健全財政の確立に向けた行財政改革に積極的に取り組んでまいります。

しっかりとした財政基盤があつてこそ、適切な市民サービスを提供することができるとであり、民間委託の推進等による職員定数の削減を進めるなど、徹底した歳出の見直しに努めるほか、財源確保に向けた収納率向上対策に取り組む、この厳しい財政状況を乗り切つてまいりたいと考えております。一方、行政施策の推進に当たっては、市民が今、何を求めているのか、最も優先すべき課題は何かを



震災の影響で市役所本庁舎が使用不可能となったため、新たに建設された市役所市民会館東側臨時庁舎

震災からの復興

その実現のために、まず取り組まなければならないことは、震災からの復興であり、今定例会に補正予算を提案させていただいたところであります。

しっかりと見極めることが重要であります。そのためにも、市政に対する市民の声を的確に把握し、市民の視点から施策の優先順位を定める仕組みを構築してまいりたいと考えております。そして、常に市民の目線、民間の感覚に立った効率的で良質な市民サービスを提供できるよう、職員の意識改革を図りながら、市民に信頼される行政運営に努めてまいります。

これらを基軸として、私は、生まれ育った水戸のまちを、市民と行政との協働によって、笑顔にあふれ、安心して暮らせるまち、未来に躍動する先進都市としていくために、精一杯、力を尽くしてまいります。

大震災から3か月が経過し、市民生活は徐々に落ち着きを取り戻しつつありますが、市民の日常生活における不安を一日でも早く解消していくためにも、震災復旧方針に基づき、道路、橋りょうをはじめ、水道、下水道等の復旧に向けまして、スピード感をもって切れ目なく取り組むこととしたところであります。特に、道路、下水道等につきましては、組織体制を強化し、より効率的な整備に早急に取り組んでまいります。

あわせて、今回の災害を教訓とし、再度の災害にもゆけるがない安全・安心なまちをつくるよう、市民生活の視点、そして、経済復興の視点から、今できること、直ちに取り組むべきことに重点をおいた補正予算を追加提案させていただくこととしたものであります。まず、市民サービスの臨時体制及び防災拠点の整備であります。

震災により市役所本庁舎等が使用不能となり、現在、緊急的な対応として、市役所機能を15箇所に分散して業務を行っているもの、市民サービスに支障を来している状況にあることから、業務の集約化を図ってまいります。三の丸庁舎敷地への市役所プレハブ庁舎とともに、市役所駐車場内へのプレハブ庁舎の整備によって庁舎臨時体制を確立し、市民の利便性を向上し、行政に対する市民の信頼の回復に努めてまいります。また、防災拠点機能の強化の観点からも、北消防署の早期再建に取り組んでまいります。

次に、安全・安心なまちづくりに向けた取組であります。

地域における防災拠点でもある市民センター

が今回の震災において、一部その役割を果たすことができず、残念ながら弱い弱さが明らかになりました。その解消を図るためにも、まず、全ての市民センターへの備蓄品の配備や防災無線機の設置に取り組みなど、防災拠点としての機能及び情報連絡体制の強化に努めてまいります。また、通学路をはじめ、歩行者の安全を確保するためにも、震災によって倒壊したブロック塀等から生垣設置への奨励を図るほか、戸建住宅の耐震改修を促進し、市民の暮らしの安全・安心の向上に努めてまいります。

さらには、産業の復興に向けた取組であります。

観光をはじめとした各種産業も大きな痛手を被っており、水戸のまちの復興のためにも、産業の復興は優先課題として取り組んでいかねければなりません。震災からの復興に向け、頑張っている水戸のイメージアップやPRを進め、風評被害の解消に努めてまいります。

これらの取組を通して、まちの復旧から復興への第一歩を歩み出してまいりたいと考えております。そして、緊急的な復旧から本格的なまちの復興、未来の水戸のまちづくりに向けて市民の声を把握するため、市民1万人アンケートを実施してまいります。

私は、市民との協働によって、まちの将来ビジョンを描き、議員の皆様並びに市民の皆様御支援と御協力をいただきながら、将来にわたって安心できる水戸のまちづくりを目指し、一生懸命頑張ってまいります所存であります。何とぞよろしくお願ひ申し上げる次第であります。